

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなで考えよう 温暖化のこと 副題 地球が病気になっています
事業主体 (連絡先)	NPO 法人チルドレンズ・ミュージアム (0263-87-2321)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業 (5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,989,000 円 (うち支援金：1,591,000 円)

事業内容

○2022年は、温暖化の原因であるCO2について学んだ。特に、4種の水力、火力、風力、ソーラーの発電模型で、実際に発電し、今、天井で光る電気は何処からきているのか?という「なぜ?」に少しずつ興味を持たせ、発電の仕組みを学んだ。また、地球を大きなゴム風船に見立て、地球の大気の厚さを質問したが、1ミリという薄い空気の層であることを学び、空気の汚れ、CO2が温暖化の原因であることを学んだ。



【蒸気力を肌で感じ取る実験】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○視聴覚優先(視覚、聴覚)のデジタル社会が、子供たちや大人までも蝕んでいる。現実には「アナログ科学が基本」であり、自分の五感を使って「勉強」することが大切だ。

参加した子どもたちや大人は、このような内容を持つ事業は初めてであり、「アナログ的体得」を基本とする展開に、興味を示し、好奇心を大いに満足させました。そして、2030年代、2050年代までの「温暖化対策の必要性」を学んだはずだ。

【目標・ねらい】

- ① 科学力の育成
- ② 「なぜ?」という好奇心を喚起する
- ③ 温暖化の原因の理解

※自己評価 **【A】**

【理由】

○大人の子どもたちへの「責任行動」として本事業を継続しています。「デジタル」と「アナログ」を再確認する事業です。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

○温暖化対策は、まさに「続けていかなければならない事業」と考えます。長野県が2019年宣言した「気象異常事態宣言」は、反故にすることは大人の責任としてあってはなりません。今、子どもでいる子どもたちが、社会の中心として活躍している時代が「暖かい、安心した生活になるために、今の大人の行動が求められています。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある